

ボランティアの心構え

1 基本的な留意事項

① 自分のことは自分で守る

病気や食べ物、住居に困っているのは被災者である。被災者に迷惑をかけては、なんのためにボランティアに行ったのかわからない。健康管理は言うまでもなく、食事や宿泊場所の確保、帰省時の交通費、貴重品の管理など、自分のことは自分で守ること。

また、ボランティア活動保険(天災タイプ)にも事前に入っておくとよい。

② 被災者の立場に立った活動をする。

混乱している被災者の心をかき乱すような態度は好ましくない。挨拶や言葉遣いなど、基本的なことを大切にすること。ボランティアは被災者に「やってあげる」のではない。「お手伝いさせていただく」くらいの気持ちで、被災者とのコミュニケーションを！

③ 自分で考えて行動しよう

誰かの指示を待っているのではなく、自分で考えて行動する。周囲の様子をよく見て、今、自分ができることをやってみる。

④ 集団行動のルールを守る。

ただし、災害ボランティア活動はグループでの活動である。勝手な判断をするのはやめ、問題が起きたらグループで相談して解決するか、それでもだめな場合はボランティアセンターに相談すること。

⑤ 断る勇気を持つ。

気持ちが先走り、できないことまで安請け合いするのはやめる。できないことはできないと断る勇気も必要である。できないことを引き受けても、後でトラブルになるだけ。

⑥ 思い込みをなくす。

勝手な思い込みは被災者との心のすれ違いを生むこともある。また「自分がやらなければ！」といった気負い過ぎも、被災者にとっては大きなお世話になる場合もある。「何をやるべきか」「何が求められているか」をしっかりと理解し、役に立つ活動をする。

⑦ 地域住民の自立を支援する。

被災者とボランティアは復興に向けて「一緒に協力する」関係である。やり過ぎて被災者の自立を遅らせることのないように、気を付けることが重要。

2 服装・持ちもの



出典:特定非営利活動法人レスキュースタックヤード「水害ボランティア作業マニュアル」

3 活動するための手順

① 正確な情報を事前に入手

ホームページや報道などでボランティア募集の状況についての情報を入手する。「とりあえず現地に行ってみる」と思って現地に行っても、ボランティアを募集しておらず、無駄足になることもある。

② 現地センターへ連絡

直接現地ボランティアセンターに連絡し、ボランティアを募集しているか、交通手段はどうなっているか、持っていくものがあるか、注意することは何かなどを確認する。

③ 出かける準備

近くの社会福祉協議会もしくは現地ボランティアセンターでボランティア活動保険に入る。

持ち物や昼食、飲み物など必要なものを用意し、帰宅時の計画も含めた旅の手配をし、活動ができる健康体であるか確認する。

④ 現地へ出発

無理な旅程はやめる。余裕を持って。

⑤ 現地到着

現地のボランティアセンターで受付をする。

<留意事項>

- ・現地に着いたら個人で活動をせずに、災害ボランティアセンターを訪ね、受付する。
- ・個別の団体等で活動をする場合も、情報共有のために、ボランティアセンターを訪ねてもらうこと。

4 活動に係る経費

ボランティア活動は自分のことは自分でやる「自己完結型」の活動である。被災地までの交通費、被災地での宿泊費、食費、ボランティア保険料など、ボランティア活動のための経費はすべて自己負担が基本。負担できる人が活動に参加する。

ただし、ボランティア保険については、市町村災害ボランティアセンター等が負担する場合もあるので、事前に確認すること。

5 安全確保

まず最初に自分の健康に留意することが大切である。また、危険な行動や危険を伴う活動は避ける。危険だと判断したら、依頼されても断ることが必要である。病気や怪我は、役に立つためのボランティア活動をかえって迷惑な活動にしてしまう。

被災地は復旧・復興活動に忙しく、ボランティアセンターも日々の活動で手一杯となる。安全に留意して、迷惑をかけないように気を付けること。

<留意事項>

被災地は食料、水、寝る場所など、基本的なものが不足している。また災害によってはケガ人が多く出たり、病気になったりする被災者が多い場合もある。被災者のためにと考えた活動が、本当に役に立つためにはどうしたらいいのか、一人一人がよく考えて行動することが重要である。